

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成17年9月(2005年)No.477

10月は映像発表会花盛り

OMC映像フェスティバルは、既報の通り10月9日(日曜日)の午後開催されますが、この月は、2日(日曜日)映像北大阪(堀皓二代表)が1時半より守口文化センターで、22日(第4土曜日)ビデオサークル・堺(柴辻英一代表)が、1時より堺市民会館小ホールで、更に月末の30日(第5日曜日)大阪アマチュア映像連盟と大阪市立中央図書館との共催による「大阪アマチュア映像祭」が12時30分開場13時上映で行われます。今年の10月はまさに映像発表会の花盛りで、忙しい月になりそうです。季節もよし、皆さん是非出掛けて行ってください。

大阪アマチュア映像祭のプログラム決まる

去る8月28日行われた大阪アマチュア映像連盟(11クラブ加盟)の会合で、今年の映像祭のプログラムが決定され、早速プログラム印刷などの準備作業が始まりました。今年は11クラブから22本の作品が寄せられ、時間一杯の映写となりそうです。22本のうち7本が海外で撮影されたもので、海外旅行を楽しむ人が増えてきたことを伺わせます。出品は各クラブ14分以内の枠で割り当てられましたが、14分を切って1本だけ出品というクラブもあり、その分わがOMCで埋めさせて頂いたプログラム編成となりました。OMC出品作は次の通りです。

- | | | |
|-----------------------|--------|-------|
| 1. ロボット | 安居利次さん | 6分56秒 |
| 2. 世界遺産・ムル国立公園(ボルネオ) | 山本正夢さん | 7分48秒 |
| 3. 越後郷愁 | 合原一夫さん | 6分45秒 |
| 4. 四次元への彷徨(事務局枠として出品) | 関 剛さん | 6分24秒 |

9例会のお知らせ

9月例会は24日(第4土曜日)午後6時より難波市民学習センターにて開催します。暑さも和らいできました。どうぞ多数のご来場をお待ちしております。作品の方もどしどしお持ちを。
 二次会も楽しい月一回の例会です。お元気な顔を見せて下さい。

10月作品研究会は休会

偶数月で作品研究会の月でしたが、例会日の22日の午後は前掲の通り、ビデオサークル塚の映像発表会の日と重なりますので、研究会の方をお休みさせて頂きました。11月に変更をと会場が空いているかどうか確認しましたが、満室で空き部屋がありませんでした。このところ難波市民学習センターの会場申込みが急増しており、3ヶ月の申込日以降は、予約が困難になっています。

■予告1：12月例会は予定通り第4土曜24日18時よりですが、13時より幹事会による年度賞選考会、15時より世話役会を開催しますのでよろしくご予定を。

■予告2：1月は昨年同様、第3日曜日の午後、例会と総会、年度賞表彰を、夕方より新年会を予定しています。会場申込は10月1日ですが、このところクジ運もついていますので多分大丈夫と思っています。

コンテスト情報

1. 第17回丹波笹山ビデオ大賞

8分以内、締切11月30日必着

テーマ：①いっしょに生きる ②心のふるさと ③私が見つけた丹波笹山

初心者部門 3分以内、テーマ自由

2. 第18回飛騨高山ドキュメンタリー映像祭

7分以内 締切は1月15日

テーマ：①自然と共に生きる ②飛騨高山部門 人・自然

賞金：グランプリ 100万円ほか

■第二回ビメールコンテスト入賞発表

最優秀賞 らかんde合唱 関 剛さん

佳作 光の中で 江村一郎さん

入賞おめでとうございます。第一回に引きつづき、今回も大阪から二名の方が入賞し大阪の実力の程が明らかになりました。

■HDV出品者へお願い

SONYのHC1発売を契機にハイビジョン作品が増えてきました。今月は3本もの出品がありました。HDV出品者はDVにダウンコンバートしたテープをご用意して書記担当者に渡して下さいようお願いします。コメントを書くのに作品を見直す必要があります。是非よろしくお願いします。

8例会のレポート

8月の例会は27日の午後6時よりいつもの例会場で開催しました。司会、安居さん、書記、前田（筆者）、デッキ係に増池さん、江村さん、河合さん、受付兼照明係を宮崎さん、森口さんの担当で進行了ました。

◆出席者：石垣、岩井、江村、奥、上総、河合、黒田、紙本、合原、進藤、関、玉井、鉄具、西井、西村、秦、華岡、藤原、前田、松本、増池、宮崎、森、森口、森田、森下、安居、山本、山口（作品出品のみ）、吉岡（敬称略）30名の皆さんと作品本数16本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：前田茂夫）

1. 赤い列車の山登り

山口さちよさん 15分15秒

SLファンの一人として現在の大畑はどうなっているのか、大変関心を持って見せていただきました。1日に2本のディーゼルカーを追って何度も現場に通われたご苦労の程がひしひしと伝わってきます。大畑ループの全貌がよく判りました。ここまで詳細に描写された山口さんの熱意と努力に敬服します。素晴らしい鉄道作品に仕上がっています。しかし、車内の乗客の楽しそうな雰囲気が伝わってこなかったは残念です。50才以上の乗客にインタビューして、”かつてここが矢岳超えのSL撮影の名所で多くのSLファンが訪れて来たものでした。”というインタビューが取れていたら尚良かったと思いました。

2. 或る個展

増池 茂さん 7分0秒

「副題にクラシックビルでの」と付けてあるように、天満宮近くのクラシックな雰囲気の残るビルを展示場として開かれた中田しのぶさんの個展を取材されたもの。写真をメインにした展示物以外にいろいろな置物や飾りつけに工夫が凝らしてあって、作者の増池さんもこの個展に魅せられたものと思いました。ゴージャスな明るい雰囲気を伝える映像です。今までの増池作品とは一味違う印象を受けました。しかし、編集の仕方、類似カットの整理をするほうがよいのでは、との司会者からのコメントがあ

りました。

3. 篠田の火祭り

玉井 勻さん 8分5秒

近江八幡の近くにある篠田の集落で江戸時代から伝わる鉄砲の火薬製造の技術を活かして作る花火の映像です。まず花火のクライマックスのシーンを見せてから TV 放送から取り入れた花火製造シーンへと繋ぎ、場所の紹介へと展開します。仕掛け花火は迫力満点でした。その後につづく硫黄を使った花火絵は青白い発光で大変神秘的ですが、BGM がおとなし過ぎて違和感がありました。選曲にご一考されてはいかがでしょうか。火祭りという神事と花火との接点が見えないのも残念です。一番惜しかったのは、TV 映像を拝借した点で、来年は再挑戦されてすべて自前の映像で見せてください。間違いなくいい作品になることと思います。しかし、迫力ある作品でした。

4. 真夏の競演

吉岡貞夫さん 6分22秒

宝塚のよさこい祭りの映像です。あまりにも有名になった高知の「よさこい」を真似て各地で行われていますが、そのひとつです。鉄腕アトムの子、ミッキーマウスの音楽が取り入れており、本場でない自由な踊りになっています。美人揃いの踊り手に焦点をあてて、作者本人が一番楽しんでおられたのでは、と、司会者のコメントでした。

5. シャングリラ

山本正夢さん 7分40秒

シャングリラとは理想郷、桃源郷とかいう意味だそうです。「昔から人々が探し求めていたシャングリラ。何処にあるのかしら。言い伝えでは平和で静かなところ。吉祥如意の宝池。教えてあげよう 美しい迪慶の地。そこが夢の中で探し求めていたシャングリラ」とのテロップが TOP で流れ、本編へ引き込んで行きます。チベットの最奥地、公共交通機関を降りて、タクシーで6時間、さらに馬で4時間という文字通り辺境の地です。あまりにも美しい自然と的確なカメラアイにうっとりとして、しばし桃源郷に連れて行ってもらったような気分を味わいました。毎回アジアの秘境に連れて行ってくれる山本作品を多くの会員は楽しみにして期待しています。これからも楽し

ませてください。

6. UMEDA & BAY AREA IN OSAKA

黒田敏彦さん 14分30秒

梅田界限、ベイエリア、大阪ドーム、海遊館、USJ、舞島スラッジセンターなど街中と海にまつわるいろんな被写体が集められます。この作品の一番の特徴は、ワイコン、フィッシュアイ・ワイコンを使って広角視野での建造物の美しさを表現しようとしていることと思います。人物の撮り方も上手で適度に挿入されており、雰囲気はよく伝わってきました。ワイド映像は熟慮された構図で撮影されており、ワイコン使用の効果はよく発揮されていたと思います。しかし、スケッチ的な風景映像で14分はやはり長いと感じます。UMEDA と BAY との2本に分けたらいかがでしょうか。

7. 土林景勝

合原一夫さん 8分38秒

中国雲南省の土林には自然が織り成す不思議な造形があります。谷を長い時間をかけて雨水が削り、あたかも彫刻家を作ったような塔や彫刻物、仏像のような造形物が谷全体に存在している誠に不思議な光景です。世界遺産には登録されていないのですが、それに値するような自然物と見受けました。ご夫婦が何度か登場し、優れた紀行作品と同時に貴重な家庭の記録でもあると思います。しかし、この類まれな奇岩、造形物をハイビジョンで見たかったと思ったのは、筆者だけでしょうか。

8. 函谷鉾 (ハイビジョン)

前田茂夫 6分40秒

今年の山鉾巡行のうち、函谷鉾だけを撮影した記録です。このような大きな祭りは10人位で持ち場を決めて撮らないとモノにならないという見本のような作品です。

9. 盛夏花点描 (ハイビジョン)

奥 宏さん 4分0秒

作者の2本目の HDV 作品です。万博公園の蓮の花を中心に、それを写すアマチュアカメラマンや入場者を適当に配し、単調になるのをうまく避けています。短編ですが、明るくいい作品でした。やはり、HDV の画は美しく、安い価格でこのようなハイビジョン映像を楽しめることは、つい最近までは想像すら出来なかった素晴らしいこ

とと思います。先月もそうでしたが、今月も音声割れたように聞こえました。映像が美しいだけに何故なのか原因を突き止める必要があります。

10. 帰郷 (ハイビジョン)

藤原純三さん 9分55秒

作者の奥さんのふるさと、山口県の奈古という小さな山村にお盆に帰省したときの記録です。車での帰省の様子から始まって、到着後の実家の付近の様子を見せています。何でも祖母の新盆だそうで、お墓参りの後、夜になると集落の全員が集まって盆踊りを楽しめます。この盆踊りが実に素朴そのもので、普段着のまま踊ります。このように何の飾りつけもない盆踊りを初めて見ました。単純なストーリーのホームビデオですが、娘さんのナレーションが実に効いていて、ほのぼのとした気持ちにさせてくれるいい作品でした。これも HCl の映像ですが、さすがに盆踊りの暗いシーンはノイズがでますが、室内では綺麗に描写されています。

11. 遠州新居 (ワイド)

紙本 勝さん 8分45秒

「伝統の手筒花火が夜空を焦がす」という副題が付いています。浜名湖の西岸の宿場町新居の紹介から始まり、作者お得意のオーソドックスな手法で展開します。諏訪神社の夏祭りに奉納されるのが有名な手筒花火だそうです。2000 本の手筒から噴出す火の粉と煙で夜空は真っ赤に色づき凄い迫力を感じます。この種の作品を撮ったら右に出るものが居ないといわれる作者の実力が如何なく発揮されています。花火の迫力或るショットは十二分にあるのですが、クライマックスになってから観客の表情がなく、数カットでも挿入されていたら祭りと観客との一体感がかもし出されて申し分なかったのにと惜しまれます。

12. YOSAKOI 2005 (ワイド)

江村一郎さん 7分0秒

毎年、故郷の「よさこい」を作品にされますが、これは 2005 年の最新作で、OMC 公開映写会出品作品です。夜だけでまとめられているのが良かったと思います。映像は作者独特のアップを主体に見せる撮り方ですが、今回はメディアムショットも多く、全体の雰囲気はよく理解できました。

13. 年に一度の夏祭り (ワイド)

河合源七郎さん 7分33秒

大阪太子町の夏祭りの作品です。5 台のダンジリと御舟輿も出て大いに盛り上がります。あまり知られていないお祭りだそうで地元の人たちだけで楽しみ盛り上がるそうです。若者のエネルギーな喜び振りを見ている私たちにも楽しさが伝わってくるような映像です。この作品もそうですが、見物客のショットがあれば、祭りに参加する人と見物する人との一体感が生まれたので惜しいと思いました。”年に一度の”という副題は不要と思います。

14. へら竿の里 (ワイド)

石垣禎章さん 9分55秒

橋本での撮影会作品ですが、先月はハイビジョン編集が間に合わなかったとのことで、今月持参されました。適切なナレーションが入り、ソツなくまとめられたいい作品に仕上がっています。

15. 蓮の花のころ (ワイド)

進藤信男さん 4分58秒

万博公園での蓮の花をメインにしたビデオスケッチの短編です。冒頭に「蓮は仏陀の生誕を告げて開花した」「女性の生殖を象徴、生命の創造、多産力、豊熟、反映、長寿、名誉、神聖不死のシンボルであった」という古代インドの言葉をテロップで流して始まります。映像はアップ、メディアム、ロングと変化を持たせて進んでいきます。また、万葉集の歌で終わる作者の工夫に好感が得られました。

16. わが町 20 年の歩み

西井 学さん 8分45秒

お住まいの守山市の住宅地自治会が 20 年の歴史を刻んだので、その記録に作りましたと持参されました。古い映像がなかったので止むを得なかったという理由はよく判りますが、写真で延々と見せるところは退屈します。地元住民にとっては大事な記録でしょうが、クラブで鑑賞するのはどうかという地元密着型記録映像でした。ラストはクリスマスイブで終わるほうがよいとの司会者のコメントでした。

以上で会員さんの作品上映を終り、何時ものように喫茶組と居酒屋組に別れて 2 次会を楽しみました。